

地域密着型金融の取組事例について

タイトル 営農経済渉外（TAC）の農業融資の取組 JA名 JAあさか野（埼玉県）

1 動機 (経緯)	○ 次世代への営農活動の円滑な継続を行うため、農業メインバンク機能の強化を重点取組項目と位置づけ、融資業務に対応できる営農経済渉外（TAC）を育成するとともに金融面でのサポートが必要となります。
2 概要	○ JA独自資金であるJA農業資金（担い手応援・制度資金）のPRにより利用度の向上を図っています。 ※無担保、融資額1,000万円まで、金利はJA所定の金利等 ○ TAC担当者4名に対し、各30先の重点推進先を設定して四半期に1度以上の訪問を義務付けることにより、農業融資のPRによる資金需要の発掘に取り組んでいます。 ○ 担い手金融リーダー（融資課長）とTAC農業融資担当者合同による、TAC農業融資担当者会議を四半期ごとに開催しています。 ○ 訪問実績について検証を行い、次の活動につなげるべく協議・実践しています。
3 成果 (効果)	○ 組合員の営農経営について、より深く内容を理解することができるようになりました。 ○ 組合員の抱える問題点、JAへの要望等について聞き取りができるようになりました。 ○ 認定農業者制度の理解を深めメリットを組合員に伝え、相談できる提案が行えるようになりました。 ○ 平成24年度農業資金実績 17件 85,010千円
4 今後の 予定(課題)	○ 引き続き継続訪問を実施し、常に農業資金のPRをしていくことで更なる利用者の拡大を図ります。 ○ 行政と連携した認定農業者の増加を図ることが必要と考えます。 ○ 農業資金利用者だけでなく、営農・経営相談まで幅広く相談活動ができるTACの育成が必要と考えます。